

かねがさき ながさわいしもちざわ

今回の紹介地区 No.135 岩手県 金ヶ崎町 永沢石持沢地区

株式会社による耕作放棄地再生利用緊急対策の活用事例

取組概要

対 象 面 積:8ha
 実 施 期 間:平成23年6月29日～平成23年11月16日
 取組のきっかけ:建設業者が耕作放棄地を再生してソバを栽培できないか町に相談したところ、町が本対策を紹介し、取組みが具体化。
 調 整 経 緯:金ヶ崎町農林課が建設業者と調整を図り、実施に至る。
 取 組 主 体:(株)太田建設(栽培作物:ソバ)
 作 業 内 容:伐採、伐根、耕起、整地、土壌改良

株式会社の概要

(株)太田建設は昭和47年に創業し、建築・土木工事の民間・公共工事を総合的に請負い営業してきた。

関連会社が経営する胆沢川温泉「さくらの湯」の食材用としてソバの栽培を行うため、平成22年に農業に参入。

なお、(株)太田建設は、県及び金ヶ崎町との共同により平成23年11月16日に今年度再生した耕作放棄地で収穫したソバ170食を、東日本大震災の被災者が避難している大船渡市の仮設住宅に提供し、被災者から喜ばれた。



被災者にソバを無償提供



再生作業前



再生作業実施中



再生作業後

今後の予定

(株)太田建設の関連会社が12月中に蕎麦屋を1店舗開業し、再生した耕作放棄地で収穫したソバを販売する予定。引き続き、耕作放棄地を積極的に再生利用し、本格的にソバの栽培に取り組む予定。

今回の紹介地区 No.136 新潟県 上越市 増沢・大淵地区

大学による耕作放棄地再生利用緊急対策の活用事例

取組概要

対象面積:1.1ha(田)

実施期間:平成21年10月17日～平成21年11月2日

取組のきっかけ:取組主体が地域の農業者から耕作放棄地を紹介され、取組みが具体化。

調整経緯:上越市が、土地所有者と利用者との調整を行い、実施に至る。

取組主体:(株)じょうえつ東京農大(栽培作物:米、そば、野菜)

作業内容:草木除去、耕起、整地、土壌改良

株式会社の概要

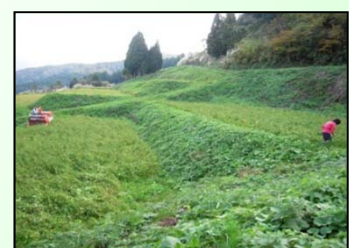
東京農業大学は平成17年から上越市の中山間地域で耕作放棄地を再生し有機栽培実験を行っている。平成20年4月に研究成果の実用化と地域振興を図るため、地元農業者などと(株)じょうえつ東京農大を設立し、平成21年4月から農業参入。現在約10haの農場で化学肥料や農薬を使用せず、米・そば・野菜の有機栽培を行っている。



再生作業前



再生作業中



再生作業後

今後の予定

当地域では、今回の取組をモデル的な事例とし、今後も耕作放棄地の解消の取り組みを推進する予定。

問い合わせ先:上越市耕作放棄地対策協議会 025-526-5111(代表)(上越市農業振興課)

今回の紹介地区 No.137 岡山県 ^{にいみ}新見市 ^{こうのいえ}蚊家地区

株式会社による耕作放棄地再生利用緊急対策の活用事例

取組概要

対象面積: 1ha(田)

実施期間: 平成22年11月1日～平成23年1月29日

取組のきっかけ: 異業種参入し耕畜連携に取り組んでいた建設業者が、年間の労働力の均衡を図るため、自ら牧草を栽培し畜産農家へ飼料を供給する取組みを具体化。

調整経緯: 取組主体が土地所有者と交渉し、利用権設定による土地集積を行い、実施に至る。

取組主体: (株)ウエストカントリー(栽培作物: イタリアンライグラス)

作業内容: 雑草や樹木の刈払い・処分、整地、土壌改良

株式会社の概要

(株)ウエストカントリーは、母体である建設会社が農業参入のため平成20年に設立した。

飼料作物を1.4ha栽培し、その他に作業受託により稲発酵粗飼料用稲(WCS用稲)の栽培を50ha、牧草管理2ha行っている。

収穫した飼料を畜産農家へ運搬し、その畜産農家の堆肥を耕種農家へ供給するなど耕畜連携を実施し、新見市循環農業の一翼を担っている。



再生作業前



再生作業実施中



再生作業後

今後の予定

引き続き、農作業全般の受託を拡大し面積を確保するとともに、労働力の均衡を図るため、牧草が栽培できるまとまった農地があれば耕作放棄地を解消する取組みも進めていく予定。

問い合わせ先: 新見地域農業再生協議会 0867-72-6133 (新見市 農林課内)

今回の紹介地区 No.138 佐野市農業再生協議会

耕作放棄地再生利用緊急対策の活用事例

解消取組の概要

耕作放棄地解消確認面積(農用地区域内): 16ha(平成22年度時点)

うち耕作放棄地再生利用緊急対策による解消面積: 13a

実施期間: 平成22年12月7日～平成23年4月17日

取組のきっかけ: 規模拡大を図る農業者が、自作地に隣接する耕作放棄地の再生を協議会に相談したことから取組みが具体化。

調整経緯: 農地利用集積円滑化団体である(財)佐野市農業公社(協議会構成員)を通じ、利用権の設定を行った。

取組主体: 近傍農業者(作付作物: 米粉用米、麦(予定))

作業内容: 重機による伐採・抜根、整地など



再生作業後

地域協議会等の取組の特徴

栃木県では、都市住民等の参加による農地の保全を図る観点から、平成17年度に(財)栃木県農業振興公社が「とちぎ夢大地応援団」を設立し、都市住民によるボランティアを募集し、地域資源の保全活動を展開しています。

佐野市においては、平成22年度に県の「とちぎ夢大地応援団推進事業」を活用し、過疎化・高齢化が進行する中山間地域(下秋山地区)において、県内外から応募のあったボランティア51名と地区内の50名が力を合わせ、約1.1haの耕作放棄地の草刈り作業等を実施するなどの取組みを行っている。



再生作業前



再生作業中



再生作業後

今後の予定

佐野市では耕作放棄地の解消を目指し、耕作放棄地対策推進事業として平成21年度より(財)農業公社に業務委託し、草刈等の指導や貸借の斡旋等を実施している。平成23年度以降も継続した取組を予定している。

問い合わせ先: 佐野市農業再生協議会 0283-61-1161(佐野市農政課)

今回の紹介地区 No.139 島根県 出雲市 大社地区 たいしや

耕作放棄地再生利用緊急対策の活用事例

取組概要

対象面積:0.65ha(畑)
 実施期間:平成22年12月4日～平成23年3月30日
 取組のきっかけ:農業の経験は全くなかったが、農業をしている両親が平成22年6月に市から耕作放棄地の活用について打診されたのを機に就農を決意。
 調整経緯:再生利用者本人が知人を介して耕作放棄地所有者と調整し、実施に至った。
 取組主体:株式会社「なかよし菜園」(申請中)(予定作物:白ネギなど)
 作業内容:雑草や樹木の刈払・処分、整地、土壌改良など

耕作放棄地再生に夢をかける人

<藤原さんのプロフィール>

藤原さんは2児の母として主婦業に専念していたが、父の勧めもあり、就農を決意。耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用し、両親と共に耕作放棄地を含む1.8haに砂地土壌に適した白ネギを栽培。全国屈指の白ネギ産地である鳥取県の生産現場に足を運び、栽培方法を勉強。現在、会社化(「なかよし菜園」で登記申請の手続き中)に向け、年間を通して栽培できる品種を選択し、計画的に年間出荷できる組合せを検討中。



藤原さんから一言

母親の視点から、無農薬栽培に取り組んでいます。育児と仕事の両立は難しく、時には、子供に負担をかけていると思うことも。「なかよく・たのしく」を心がけ、会社名を「なかよし菜園」にしました。今後も、耕作放棄地の再生に協力し、良いネギを消費者に届けることができるようがんばります。



問い合わせ先:出雲市耕作放棄地対策協議会 0853-21-6762 (出雲市農業振興課)

今回の紹介地区 No.140 山口県 周防大島町 にしみがま 西三蒲地区

耕作放棄地再生利用緊急対策の活用事例

取組概要

対象面積:1.1a(畑)
 実施期間:平成22年1月15日～平成25年3月31日(予定)
 取組のきっかけ:県外者が大阪で開催された国土交通省主催の「島づくりキャラバン」で周防大島を知り、島での営農による生活を希望。
 調整経緯:担い手支援センターや町職員及び地元農家の方々による土地所有者との調整及び協力により、実施に至る。
 取組主体:新規就農者(予定作物:ブドウ、ブルーベリー)
 作業内容:草刈、耕起、整地、土壌改良、施設等補完整備(ブドウ棚の整備)

耕作放棄地再生に夢をかける人

<山形さんのプロフィール>
 兵庫県宝塚市出身で、リフォームの営業を経て東京でイベント会社の仕事に従事。
 周防大島の自然の豊かさに惚れ込み、同町での営農による生活を決心し、2010年3月に勤めていた会社を退職。退職後、周防大島町にIターンし、近隣のブドウ農家で研修を受けながら耕作放棄地を再生。再生後の農地でブドウ及びブルーベリー栽培に取り組み、観光農園化を目指している。



再生作業前



再生作業実施中



再生作業後

山形さんから一言

地域の皆さんの御協力もあり、耕作放棄地が立派な農地に戻りました。
 島の活性化のためにも、世の中に唯一無二の観光農園を目指して頑張っていきます。ぜひ遊びに来て下さい!



問い合わせ先:周防大島地域担い手育成総合支援協議会 0820-79-1007(周防大島町農林課)